

代表的な意見である。

三 建國會議と東北行政委員會の組織

前述の如く張家の勢力は既に崩壊し、東北全土は獨立したが、それは各省區が夫、個々別々に獨立したので、彼を以て此を制するの權能なく、又此を以て彼に令するの能力も無く、正に所謂一國三公群雄割據の情勢を呈して、自ら統一することが出来なかつた、斯くの如き畸形的狀態を以てしては、如何に王道政治を行はんとするも實力に乏しく、況んや熱河蒙旗各處に號令せんとするが如きに於ては、寧ろ痴人夢を説くに類するものであつた。従て東北を救ひ民衆を水火の裡より更生せしむる爲には、滿蒙を團結して一體となすの外策案なしとし、茲に滿蒙新國家建設の議起り、曩に獨立した各省を更に一團に固むるの必要が唱へらるゝに至つた。是に於て民間の輿論に基き、各省區執政者は互に代表を派遣して其協議を進めた結果、大體新國家結成の諒解成り、二月十三日張景惠、馬占山等、哈爾濱に於て重要會議を開いた結果、二月十六、七、八の三日間、奉天に於

滿洲國成立の経緯と其國家機構に就て

て建國會議を開き、輿論を採取して集議を實行し、以て民意を觀、廣益を思ふの效を收集するに決した。

是に於て熙洽は十四日汽車によりて奉天に到り、續いて張景惠は十五日、馬占山は十六日、いづれも哈爾濱から飛行機にて奉天に乗り込み、これに奉天省長臧式毅、奉天市長趙欣伯を加へて、二月十六日建國會議を開き左記事項を決議した。

一 東北行政委員會等の名稱を用ひ、舊東北政務委員會との區別を容易ならしめ、會議は遊動的に開催し一地に常駐しない。

二 委員長を設け其人選は其都度定む。

三 十七日發會式を舉げ一兩日中に宣言を發表す。四巨頭の外蒙古王、呼倫貝爾（興安嶺西方地區）凌陞、哲里木盟（洮南附近一帯の地區）齊王、熱河湯玉麟を加へる。宣言内容には委員會開設の理由、使命を明にし、各省政務に統制を行ふの必要を述べ、尙自主獨立、軍閥打倒、平等待遇を標榜し、民衆の福利増進を圖る如くすべきこと

を闡明す。

四 新國家樹立の爲照治、馬山占は代表者を奉天に止め、其他は引續き奉天にありて只管建設に邁進す。

五 將來の首都は長春と決定す。

次で二月十七日午後東北各巨頭は奉天省政府に集合し、新滿蒙國家を建設し、其重要事項を議定する爲、東北行政委員會を組織し、張景惠を委員長に、張景惠、臧式毅、照治、馬占山、湯玉麟、凌陞、齊王を委員に任命した。斯くて本委員會は馬占山を黑龍江省長官に任命し、且東北各省、各軍に本會成立の旨を通電した。更に十八日行政委員會は左記の獨立宣言書を發表した。

東北行政委員會宣言

東北事變發生以來瞬息の間に既に數月を閲し、人民望治の念は宛も飢渴に食水を求むるが如し、茲に更始一新の時に方り、復活蘇生の願いよいよ切なるものあり、景惠等

滿洲國成立の経緯と其國家機構に就て

悉くも推舉せられて省區の領袖と成る、舊を革め新を洗ふの責は他に嫁す能はず、茲に大計を諮る可く一堂に會せるが、皆曰く「鞏固なる團體あるにあらざれば以て全局を策るに足らず、人民の公意に基くにあらざれば以て新猷を建つるに足らず」と、茲に於て東北四省、一特別區及蒙古各王侯を連結して一機關を組織し、東北行政委員會と命名し、成立と共に内外に通信を發せり。即ち此より黨國政府と關係を離脱し東北省區は完全に獨立せり。更に獨立の精神を以て行政の改善を圖らんとす。

先に軍閥は苛政を布き誅求を肆にし、爲に民衆は熱火深水の裡に在るが如く、殆ど生命さへ保持し得ざる状態にして、鄉村に普き痛苦の涙未だ乾かず、虎狼に等しき爪牙の餘毒亦尙存す。正に徹底的に根絶し、再び其枝節をして蔓延跋扈せしむべからず。古經に曰く「民を撫するを后と謂ひ、民を保するを王と謂ふ」とあり四民蘇生して安息を得ば善政即ち成らん。これ本會第一の使命なり。

近來民衆虐待の專政は其利を恣にし、怨恨茲に集中して社會道德は日に漸く消亡せん

とす、社會は即ち國家の基礎、道德は政治の本源なり。古書にも「忠信篤敬ならば蠻貊の邦と雖行はるべし」とあり、排外政策を持せず、茲に國際戦争をやめ、更に門戸解放機會均等主義を以て世界民族と共存共榮せん。これ本會第二の使命なり。

内を安んじ外に和するは政治の根本なり。已に根本の鞏固を謀る、又宜しく枝幹の繁榮を講ずべし。即ち職業を獎勵勸進し農商を發展せしめ、利を生ずる者をして日に多からしめ、業を失ふ者をして日に少からしめば、社會の利益均霑され、階級の鬭爭自ら混び赤化行はれず民生以て期すべし。これ本會第三の使命なり。

景惠等は以上三大使命完成の爲、本會により我が東北各省區人民の爲に幸福を求めんとす。これ又我が東亞各種族人民の爲幸福を求むる所以なり。天日は上に在りて此の宣言を照鑒さる。邦人君子夫れ興起して我等を助けよ。

二月十八日

委員長 張景惠 委員 臧式毅
委員 馬占山 委員 熙洽

滿洲國成立の経緯と其國家機構に就て

九

2019

委員 湯玉麟 委員 凌陞
委員 齊王

斯くて張景惠は暫く奉天に駐まり、馬占山は十八日、熙洽は十九日、夫、任地に歸り、各省は代表を奉天に残置して最高政府組織に關する研究準備に著手した。

而して新國家建設に關する民衆運動は愈々盛となり、奉天省に於ては二月十七日錦州縣長主宰の下に率先して建國促進運動を行ひ、逐次各縣も之に倣ひ、二十日より奉天に於て民衆の示威運動が行はれた。又吉林省に於ては建國促進準備委員會を設け、二月十四日各縣に檄を飛ばして各縣代表を吉林に集め、十七、十八、十九の三日間建國促進の會議を開き、齊々哈爾に於ては二月十一日新國家建設の示威運動を起し、省政府參議李維周委員長となり、建國籌備委員會を組織し諸準備に當つた。

東北行政委員會の建國大綱審議は一瀉千里に進行し、二月二十五日には新國家建設及統治原則の大綱を左の如く定めた。

2020

新國家組織大綱

- 一 新國家名を滿洲國と稱す。
 - 二 新國家の政治は民本主義に依る。
 - 三 滿洲國の元首名を執政と稱す。
 - 四 滿洲國國旗を新五色旗と稱す。
 - 五 新國家の成立と同時に年號「民國」を廢して「大同」と新稱す。
 - 六 執政は人民に推戴せられ立憲制により統治す。
 - 七 將來民意に基き憲法を制定す。
 - 八 執政々治は憲法制定に至る迄の統治形態とす。
- 二月二十八日東北行政委員會は其業務を終り、且滿洲國政府の名を以て三月一日建國宣言を發することを決議した。此日再び奉天に於ては國家成立促進全滿代表大會行はれ頗る盛大を極めた。

滿洲國成立の経緯と其國家機構に就て